

第5回 The 5th Japanese Society for Foot Care and Podiatric Medicine

日本フットケア・足病医学会 年次学術集会

One Step Further

もう一步、その先へ

2024. 11.29 FRI ▶▶ 30 SAT

プログラム・抄録集



会長

東 信良

旭川医科大学 外科学講座
血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野 教授

副会長

日野岡 蘭子

旭川医科大学病院 看護部

会場

神戸国際会議場

〒650-0046
神戸市中央区港島中町 6 丁目 9-1

神戸ポートピアホテル

〒650-0046
神戸市中央区港島中町 6 丁目 10-1

The 5th Japanese Society for Foot Care and Podiatric Medicine

第5回 日本フットケア・足病医学会 年次学術集会

プログラム・抄録集

One Step Further —もう一步、その先へ—

会 期 2024年11月29日金・30日土

会 場 神戸国際会議場

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目9-1

神戸ポートピアホテル

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10-1

会 長 東 信良

旭川医科大学 外科学講座

血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野 教授

副会長 日野岡 蘭子

旭川医科大学病院 看護部

事 務 局 旭川医科大学 外科学講座 血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

運営事務局 株式会社 エヌ・プラクティス

〒541-0046 大阪市中央区平野町1-8-13平野町八千代ビル 7階

TEL: 06-6203-6731

E-mail: jfcpm2024-secretariat@n-practice.co.jp

<https://www.n-practice.co.jp/jfcpm2024/>



優秀演題

優秀演題セッション

11月29日(金) 10:00~11:30 第4会場

座長：佐藤 勝彦(札幌心臓血管クリニック 循環器内科)
樋口 ミキ(日本看護協会看護研修学校)
宮下 裕介(長野赤十字病院 循環器内科)

審査員：上村 哲司(佐賀大学 医学部 形成外科)
大竹 剛靖(湘南鎌倉総合病院 腎臓病総合医療センター)
柿花 隆昭(東京大学医学部附属病院 トランスレーショナルリサーチセンター)
田村 綾(市立札幌病院 看護部)
東田 隆治(横浜総合病院 心臓血管外科)

- EO-1** フットケアにおける看護師の多職種連携の実践能力と関連要因
永瀬 紗奈衣(独立行政法人地域医療機能推進機構 神戸中央病院) 178
- EO-2** 弾性ストッキングの色調による使用感と形態的・物理的性質に関する検討
牛山 浅美(東名厚木病院 看護部、
日本静脈学会 弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター養成委員会) 178
- EO-3** レオカーナ(LDL-A)による創傷治癒効果に影響を与える因子についての検討
田村 周平(社会医療法人社団カレスサポロ時計台記念病院 臨床工学科) 178
- EO-4** 創傷治療目的に入院した下肢閉塞性動脈疾患(LEAD)の予後に関する検討
菊池 佳世(湘南藤沢徳洲会病院 リハビリテーション室) 178
- EO-5** 血管内治療を施行した包括的高度慢性下肢虚血患者における患者背景、臨床予後の時代変遷
畑 陽介(関西労災病院 循環器内科) 179
- EO-6** 小学校における足測定の意味(第2報)
～子どもの足長・足囲と上履きの実態～
山口 久美子(一般社団法人足育研究会、一般社団法人足と靴と健康協議会) 179
- EO-7** 透析患者のABIと足趾可動域の関係について
伊藤 美枝(医療法人社団清永会 矢吹病院 看護部) 179
- EO-8** Bypass術による血行再建を施行したCLTI加療における
IM grade P2の重度足部病変が肢機能に与える影響
土井田 務(旭川医科大学 外科学講座 血管外科) 179

EO-1

フットケアにおける 看護師の多職種連携の実践能力と関連要因

○永瀬 紗奈衣¹⁾、池田 清子²⁾、高木 廣文²⁾

1) 独立行政法人地域医療機能推進機構 神戸中央病院、2) 神戸市看護大学

【目的】足病の予防的・治療的フットケアでは多職種連携(以下、IPW)が不可欠で、その調整、推進のための実践能力が看護師には求められる。本研究では看護師のIPW実践能力と関連要因を検討する。【方法】全国750施設の代表看護師1名に質問紙調査(2023年6～8月)した横断的研究である。IPW実践能力評価尺度(CICS29)によるIPW実践能力と個人要因やフットケアのIPW状況等を統計学的に分析した(有意水準5%)。

【結果】回収数324件(回収率43.2%)、有効回答157件であり、IPW実践能力は11項目で有意差が認められた。 t 検定により慢性疾患看護専門看護師資格の有無($p=.004$)、看護師特定行為陰圧閉鎖療法実施の有無($p=.013$)、一元配置分散分析によりフットケア実践年数($p=.004$)の5年以上～10年未満と15年以上の間($p=.004$)、不定期情報共有頻度($p=.009$)の2週1回～1回と週1回以上の間($p=.012$)等の項目であった。IPW実践能力を従属変数とした重回帰分析では、慢性疾患看護専門看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、足病変の予防的指導、フットケア学習高頻度、IPW学習経験、連携職種数、不定期情報共有週1回以上、定期カンファレンス月1回以上、病床数200床未満の各変数が選択された(自由度調整済み $R^2=.207$)。

【結論】モデルの説明力は大きくないがフットケアでの看護師のIPW実践能力を説明するモデルは明らかにされておらず、IPW実践能力向上のための有用な示唆が得られた。

EO-3

レオカーナ(LDL-A)による創傷治療効果に 影響を与える因子についての検討

○田村 周平

社会医療法人社団カレスサポロ時計台記念病院 臨床工学科

【はじめに】CLTIは血行再建後に十分な血流改善が得られなかった症例等に下肢救済目的でHBOT、LDL-A等の補助療法が併用される事がある。

【目的】LDL-Aによる創傷治療に影響を与える因子を検討した。

【患者背景】CLTI患者15名。

【評価項目】後ろ向き研究により、血管造影、潰瘍範囲、CRP、LDL-C、Fibを評価した。

【結果】創傷治療(Healedgroup:HG)した10名は血管造影で足部以下に標的血管があり、創傷治療に至らなかった(Unhealedgroup:UG)5名は血管造影で足部に標的血管がなかった。潰瘍の平均径(=√長径×短径と定義)はHG 5.4 ± 1.7 cm、UG $6.7 \pm 2.1/10.2 \pm 3.0$ cmに拡大し大切断に至った。CRP:HG $1.6 \pm 2.0/0.9 \pm 1.1$ mg/dL、UG $4.6 \pm 2.8/5.1 \pm 4.8$ mg/dL、HGとUGのLDL-A前に統計学的有意差があった。LDL-C:HG $67.5 \pm 30.2/48.5 \pm 17.3$ mg/dL、UG $45.0 \pm 21.7/32.6 \pm 13.4$ mg/dL、HGとUGのLDL-A前後に統計学的有意差があった。Fib:HG $282.7 \pm 88.3/233.6 \pm 74.4$ mg/dL、UG $331.0 \pm 109.6/253.2 \pm 95.2$ mg/dL、HGのLDL-A前後、HGとUGのLDL-A前で統計学的有意差があった。

【考察】UGは、①血管造影で足部の標的血管を認めず、②CRPはLDL-A前で高値であった。LDL-Aによる潰瘍改善は足部の標的血管がなく、LDL-A中に潰瘍範囲が拡大、かつ活動的感染がある状態では期待できない可能性がある。

【結語】本研究において、CLTIのLDL-Aによる創傷治療に影響を与える因子は1)血管造影の標的血管の有無、2)LDL-A中に潰瘍範囲拡大がない、3)活動的感染の有無、であった。

EO-2

弾性ストッキングの色調による 使用感と形態的・物理的性質に関する検討

○山本 浅美^{1,2)}、中 正剛³⁾、小島 淳夫⁴⁾、野村 直樹⁵⁾、山下 巖⁶⁾、鎌田 順道⁷⁾、田澤 賢一⁸⁾、志村 信一郎⁹⁾

1) 東名厚木病院 看護部、2) 日本静脈学会 弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター養成委員会、3) 東名厚木病院 整形外科、4) 東名厚木病院 血管外科、5) 東名厚木病院 総合診療科、6) 東名厚木病院 救急科、7) 東名厚木病院 乳腺外科、8) 東名厚木病院 消化器外科、9) 東邦大学医療センター大橋病院 心臓血管外科

【はじめに】弾性ストッキング(ECS)は、同一製品でも色調により感触や使用感が異なる。

【目的】色違いのECSにおける、使用感と性質の違いについて検討した。

【対象と方法】平編み・丸編みそれぞれ、同一製品のハイソックス各6色2本ずつ使用した。JIS規格を参考に、伸長率、編目密度、置き寸、厚み、質量を測定し、多重比較検定と相関分析を実施した。過去2年間に色違いのECSを着用した患者21名に、使用感を聞き取り調査した。

【結果】平編み・丸編みとも、各項目の測定値はいずれも色による差を認めた($p<0.01$)。色調が暗い黒と紺色系は横に伸び、ベージュ系は横に伸びにくい傾向がみられた。特に黒は高密度で置き寸が小さい特徴を認めた。ただし、平編み新ベージュと丸編みキヤラメルは他と異なる性質を示した。横伸率は、縦編目密度と正の相関を認め(平編み $rs=0.4$ 、丸編み $rs=0.8$)、横置き寸と負の相関を認めた(平編み $rs=-0.7$ 、丸編み $rs=-0.4$)。また、黒は締め付けを強く感じる患者が多かった。

【考察】色調によるECSの性質の差は、染料の浸透力や染色力、染色条件(時間、温度、濃度等)の影響が考えられる。黒は編地の収縮に伴い、単位面積内の編目密度が増加し、横伸率も大きい数値を示したと推考される。また、使用感と編地の特徴が一致しており、性質の差を敏感に感じている患者の疑問への真摯な対応が必要である。今後、耐久性や作用についても検討が必要と考える。

EO-4

創傷治療目的に入院した下肢閉塞性動脈疾患(LEAD)の 予後に関する検討

○菊池 佳世¹⁾、倉田 修治²⁾、小林 直樹¹⁾、角田 賢史¹⁾、成川 かほり^{1,3)}、高島 聖子¹⁾、上田 晃子⁴⁾、飯田 直成⁴⁾、渡邊 京子⁵⁾

1) 湘南藤沢徳洲会病院 リハビリテーション室、2) 湘南藤沢徳洲会病院 外科、3) 湘南藤沢徳洲会病院 看護部、4) 湘南藤沢徳洲会病院 形成外科、5) 湘南藤沢徳洲会病院 皮膚科

【目的】下肢閉塞性動脈疾患(以下、LEAD)はその病態から併存疾患が多く生命予後不良とされている。しかし、歩行能力と生命予後に関連した報告は寡少である。今回、当院に下肢創傷治療を目的として入院したLEADを有する患者の併存疾患、歩行能力と予後について調査した。

【方法】2019年11月から2022年7月までに下肢創傷治療を目的として入院した患者のうち、LEADと診断されている91例を対象とした。カルテより後方視的に併存疾患、検査所見、歩行可否、および生存状況を調査した。統計分析は t 検定、mann-whitneyU検定、Fisher正確確率検定を使用し、1年後生存の有無で2群に分け比較検討した。有意水準は5%とした。また、ロジスティック回帰分析で1年後生存の有無に強く影響している因子を検討した。

【結果】対象者91例(76.8 $\pm$ 10.8歳、在院日数41.2 $\pm$ 41.2日)のうち、1年後生存群は67例、1年後死亡群は24例であった。入院時CRE、心不全既往の有無、退院時歩行可否の各項目において2群間で有意差が認められた($p<0.05$)。また、1年後生存の有無を目的変数としたロジスティック回帰分析でCREと退院時歩行可否が強く影響していることがわかった。

【結論】入院時CRE、退院時歩行可否が1年後の生命予後に影響することが示唆された。

発表に際し開示すべきCOIはありません。